

石川県七尾市 災害復興 ボランティア参加!



元日に起きた「能登半島地震」石川県が災害ボランティアバンクを創設し、個人・団体からのボランティアを全国的に募集しています。活動内容は家屋の片づけ、泥出し、がれき撤去、支援物資の整理など様々で医療・介護など専門的な支援を含め、多くの方が被災地にて活動しています。

今回、七尾市に開設しているテント村のプロジェクトを知り応募。3月31日(日)当団体職員の石田佳寿子と竹内理沙が、被災地復興支援ボランティアに参加してきました。

※詳細は内面「災害復興ボランティア活動記」をご覧ください。

< 通常総会のお知らせ >

2024年度通常総会を5月25日(土)午前10時00分から京丹波町商工会瑞穂支所で開催します。

会員の皆様には、ご出席いただけますよう、よろしくお願いいたします。

NPO 法人クローバー・サービス

京都府船井郡京丹波町橋爪楡山 53

■TEL (0771)88-5014 / ■FAX (0771)88-5017

■e-mail: info@cloverservice.or.jp

■ホームページ http://www.cloverservice.or.jp

クローバー・デイサービスセンター

京都府船井郡京丹波町橋爪楡山 41-1

■TEL & FAX (0771)88-0138

■e-mail: day@cloverservice.or.jp



facebook QR

被災地ボランティア活動記

3/30(土) 移動・前泊

14:00 頃 クローバー・サービス出発
京都縦貫自動車道から、舞鶴若狭自動車道、北陸自動車道を經由、2 回の休憩を挟んで運転を交代しながらゆっくり安全に移動。

21:30 頃

石川県七尾市のテント村到着。



↑ 寝袋レンタルあり、ライト、防犯ブザーの貸し出しもあり、夜間の見守りに宿直スタッフも常駐していました。



ボランティアに参加した
竹内理沙(写真左)と
石田佳寿子(写真右)



七尾市

2024 年1月1日の地震では震度 6 強を記録しました



↑ 球技場に設置されたテント数は100張(1テント 2名まで OK)

「能登半島地震支援テントプロジェクト」

実施団体:

岡山県総社市・赤磐市、大阪府和泉市・東大阪市、
神奈川県海老名市・鎌倉市、富山県南砺市
認定 NPO 法人ピーク・エイド(登山家 野口健氏代表)

- ・災害ボランティア車両の高速道路の無料措置を適用
- ・災害ボランティア活動保険に加入

※詳細は総社市ホームページにて

<https://www.city.soja.okayama.jp/kikikanri/kurashi/bousai/sonotabousai/volunteerbosyu.html>

3/31(日) ボランティア活動・移動

8:30 ボランティア受付

8:45~10:00 全体説明・班ごとの説明

10:00 ボランティアセンター出発

【行き先】七尾市内個人宅(各班 1~3 件)

【内容】

- ・災害ゴミ処理申請で予め認可された物を処理場へ運ぶ作業
- ・被害で住めない住居から避難先住所への引っ越し作業

石田は軽トラ運転、竹内は搬出積込をそれぞれの班で分かれて活動した。

14:45 ボランティアセンター着

15:00 七尾市出発

21:40 頃 京丹波町着



↑作業前、ミーティングの様子。

1班10名程度で構成、この日は14件ほどの依頼を8班に分かれ、作業を行った。各班、出発・到着・搬出先の確認をパディコム(携帯無線機)でやり取りしながら、リーダーの指示でスタッフが動く。リーダーは依頼主にモニタリングを行い、搬出物の確認をし、心情を伺う。積み込み作業が終了したら、搬送の軽トラは仮置き場へ移動。他のスタッフは2件目の依頼者宅へ向かう。仮置き場到着後はその担当ボランティアが積み下ろしを行い、積み下ろしが終わったら、2件目宅で合流。同様の手順で作業を行った。

依頼者宅へと軽トラで運転していると、ところどころ損壊したままの家屋、ひび割れた道路や歩道、土砂崩れの山など見かけた。もともと地盤が緩んでいる上に、幾度も運搬車両が通るため、仮収集場のあたりはアスファルトが凸凹になっていると聞き、注意しながら運転をした。

依頼者宅へ到着すると、ご近所の方が「だいぶ前に申し込んだけどまだ来てもらえていない。どうなっている?」と聞きにこられた。受付順で認可になると理解してもらえるように丁寧に説明をする。たくさんの申請があるが、コーディネーターの家屋確認が追いついておらず、150件待ちの状態とのこと。住民の方々の思いもかみしめながら作業に努めた。



水気を含んだ畳を運ぶボランティア。↑

日本全国、いろんな地域からこられたボランティアの方々でしたが、同じような気持ちで集まった同志ならではの一致団結であつという間に作業が進みました。2日目以上のボランティアさんは、素晴らしい段取りで作業をこなしていて心強かった!

ある人は退職をし、すぐに現地に来て1か月滞在し活動。地元の若い男性の方は、毎週末に軽トラを持ち込み活動。ボランティアバスでやってきて、数名で交代しながら訪れている方もいました。ほんの数人と会話しただけでしたが、この七尾市を訪れた同志の思いに共感し、一期一会の出会いに感動しました。



↑軽トラ荷台に積み込む様子。

被災地のボランティアに参加して…

短い時間のボランティアでしたが、小さいチカラも人が集まると大きなチカラになるんだなと実感しました。災害ボランティア目的であれば、高速道路の無料措置があることも今回初めて知りました。

まだまだ大変な状況の中、この活動をさせてもらい逆にチカラをいただきました。終わったみんなの気持ちが被災された方々の生きるチカラに少しでもなるよう願います。一人ひとりそれぞれ違う形でいいので自分たちが

できることを探しましょう！ <石田佳寿子>

ボランティアへ参加し、震災で壊れた食器、食器棚の廃棄、住めなくなった家からの引越し作業の手伝いをしてきました。まだまだ被災前の環境からは程遠く、支援を必要とされている方がたくさんいることを実感しました。

被災した方々の役に立つことのできる時間は非常に貴重なものでした。石川県の少しでも早い復興を願います。 <竹内理沙>

日本財団より助成を受け、新車両導入



日本財団の2023年度車両助成事業を受け、日産セレナ（8人乗り）を新たに導入しました。車両本体価格は281万円のうち224万円を日本財団から助成を受けました。

先進性のある見た目と、最新装備が各所に見られ、近未来を感じます。

デイサービス需要が高まる中、広範囲の送迎が必要になってきています。最大7名の利用者を一度に送迎できる為、早速フル回転しています。また今後、送迎の合間など外出支援やヘルパー活動にも活用していきます。

<賛助会員>

(有)あさひ堂
(株)一谷住宅
イン・ザ・ルーム 亀岡店
上段税理士事務所
(株)高木設備
たにやま鍼灸接骨院
田端輪業
(有)土佐寿司
(有)永田損害保険事務所
(有)西村テレビ
三木歯科医院
みづほ電工
理容ちどり

(五十音順)



↑ドアを開けると乗り降りしやすいステップが出てきます。



パトリシア・ハイスミス (1921~1995)

パトリシア・ハイスミスは米国テキサス州生まれ。一九六三年以降、四十代からヨーロッパに移り、英仏伊などで暮らす。スイスで白血病で亡くなった。



映画・本・歴史のこと

<第15回>パトリシア・ハイスミスと映画化作品

有田誠(ありたまこと) 京丹波町在住の映画愛好家。
写真は、スイス・パーゼルの道路標識 (1985年冬筆者撮影)

で出版された。長編二十冊、短編集八冊くらいはほぼ翻訳された。絶版の恐れがあるので、目につくとすぐに買う。それでも手元には十二冊しかない。映画化された作品は、十五本くらいか。半分はフランスやドイツ映画になる。

日本ではその著作はほんの一部が翻訳されただけ。入手困難であったり、すぐに絶版となった。なぜか、九十年代に創元社、扶桑社、河出、早川、角川などから相ついで未訳本が文庫

『見知らぬ乗客』(一九五〇年、ハイスミスが二十九歳のとき出版された。六つの出版社に断られ、トルーマン・カポーティの手助けで日の目を見た。ヒッチコックは即映画化権を買い取った。列車の食堂車でたまたま同席したブルーノ(ロバート・ウォーカー)が、ガイ(フアーリー・グレンジャー)に交換殺人をもちかける。ブルーノが憎む大金持ちの父親とプロテニス選手

彼女は、アメリカよりヨーロッパで人気が高い。一九八八年には、フランスでパトリシア・ハイスミス賞というミステリー賞が設けられた。たしかスイスには彼女の資料館がある。『見知らぬ乗客』(一九五〇年、ハイスミスが二十九歳のとき出版された。六つの出版社に断られ、トルーマン・カポーティの手助けで日の目を見た。ヒッチコックは即映画化権を買い取った。

この映画には、すぐ目に浮かぶシーンがいっぱいある。開巻、列車乗車まで、二人の男の足元だけを映していく。テニスの試合のユーマアと恐怖の混在。ブルーノがライターを側溝に落とし、必死で拾おうとするサスペンス。絞め殺される妻のメガネにゆがんで映る男の姿：等々。ヒッチコック

お互いが殺し、動機不明の完全犯罪を目論む。ブルーノは母親ともども異常性格の持ち主である。ヒッチコックは母子の抑圧関係を繰り返し描いている。『サイコ』(一九六〇)『汚名』(一九四六)『鳥』(一九六三)や、笑えるものなら『北北西に進路を取れ』(一九五九)など。明らかにヒッチコック本人の投影だろう。



『見知らぬ乗客』のF・グレンジャー(左)とR・ウォーカー

クが映像の作家であることを証明するものだろう。脚本はレイモンド・チャンドラーが担当したが、お互いのしり合うほど意見が合わなかったらしい。『レイモンド・チャンドラー語る』(一九八四 清水俊二 訳 早川)で、こんな犯罪の脚本化は不可能だと箇条書きにして理由を述べている。最終的には、チェンチ・オーモンドとの共作になった。チャンドラーは「シナリオライターとして



『太陽がいっぱい』のアラン・ドロン

名前を出されるのを拒否しようかと考えています」と書いています。

原作がかなり改変されたが、ハイスミスも出版第一作がヒッチコックに映画化され幸運だったと言える。

『太陽がいっぱい』（一九六〇）ルネ・クレマン

ニノ・ロータの音楽は、題名を知らなくても、だれもが知っている。

初めて見たのが、高校二年のときだった。当時の不安感や劣等感、先行きの見

えなさのアラン・ドロンに

凝縮されていた。強烈な印象を受けた。映画の面白さが焼きついた一作である。

主演はトム・リプリーにアラン・ドロン(当時二十五歳)。殺されるディッキー・グリーンリーフにモリス・

ロネ。その女友だちマージがマリー・ラフォレ。

原作ではトム・リプリーは二つの殺人から逃げおせるが、映画はドンデン返

しで、わが人生の不安と罪悪感のトラウマとなった。

監督のルネ・クレマンは『禁じられた遊び』(一九五五)やチャールズ・ブロンソ

ンが大スターとなる『雨の訪問者』(一九六九)など傑作から駄作まで多々ある。

トムはディッキーを殺し、彼になりすます。原作の後半は、この捜査から逃

げんとする彼の不安定な行動と心理描写に割かれる。

まるで自分の悪事がばれるような緊迫感で、読んでいて息苦しくなる。善と悪が

混在するハイスミスの徹底した心理分析の作風は、いかにもヨーロッパで受け入れられるのだろう。

トム・リプリーものは十五年をおいて二作目『贖作』が登場する。全部で五作、すべて河出文庫。

『アメリカの友人』(一九七〇) ヴィム・ヴェンダース

七十年代後半に(西)ドイツ映画ブームが起こり、フ

アスビンダー、ヘルツォーク、シュレンドルフなどの作品は日本でも大人気であ

った。その一人、ヴィム・ヴェンダースが、リプリーの三作目をスター監督になる前に撮ったのが『アメリ

カの友人』である。

今やリプリーは大富豪の娘と結婚し、パリに暮らしている。ハンブルグからイ

タリアのマフィアを殺す話をもちかけられる。それを白血病で余命のないジョナ

サンという額縁職人に請け負わせる。実に深刻なジョナサン(ブルーノ・ガンツ)

の笑えないドタバタ悲喜劇が展開する。リプリー役はデニス・ホッパー。

ヴェンダースはこの辺りまでは面白かったが、その脳ミソ肥大症に辟易して、興味がなくなった。

去年、『Perfect Day』を撮り、久々に見た。役所

広司の便所掃除人の日常を細かく積み重ねる描き方に好感をもった。ところが、

後半は手垢にまみれた話で、白けてしまった。

ヴェンダースに欠けてい

るのは肉体的である。役所広司が毎日毎日、朝は缶コーヒー、昼はコンビニのサ

ンドイッチ、夜は浅草で焼きソバなんて、こちらの体調までおかしくなる。そう

いう身体的感度の鈍さが、彼の限界だろう。

寝る前に読む文庫本が、パトリシア・ハイスミスやウィリアム・フォークナー

というさりげなさは許容できが。大土木仕事を超インテリ

が、ハチマキ、地下足袋姿でやっているようなクリストファー・ノーランを少し

は見習うべきだ。『バットマン』三部作、『ダンケルク』『テネット』から『オ

ツペンハイマー』まで、体力がないと深い知力は作動しない。